

Well-beingについて

ウェルビーイングとは何か

新しい「ものさし」・コンセプト

▲ 経済だけではなく

こころの充足、生活への評価・感情・価値、健康まで

幸せとウェルビーイングの違い

Happiness = 短期的・個人的な感情状態

Well-being = 個人 + 個人をとりまく「場」が持続的によい状態であること

包括的コンセプト

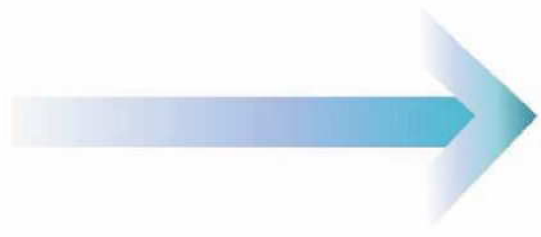
自分の生きる道だけではなく、家族や友人、自分の住む地域・学校が、どのようになれば「良い状態」でいられるのかについて考えること

(出典) 京都大学 人と社会の未来研究院院長 内田由紀子 教授 御提供資料より

ウェルビーイングの深化

ウェルビーイングの深化

- 今が楽しい
(個人・現在)
- これからの将来に希望を持てる
(個人・将来展望)
- クラスや地域の人の幸せを願う
(社会・共生)
- この町・学校・世界を良くしていきたい
(利他性・公共・持続)



(出典)京都大学 人と社会の未来研究院院長 内田由紀子 教授 御提供資料より 2

二つのタイプの幸福

獲得系

- 自分で道を開拓
- 自己実現

これまで私は
望んだものは手に
入れてきた

協調系

- 他者との調和
- 自然や地域との共生

大切な人を幸せに
していると思う

3

全国学力・学習状況調査質問紙によるウエルビーイングに関する調査結果

※ %は肯定的な回答の割合

獲得的要素	【自分には、よいところがあると思いますか】	小：83.5% (全国：84.1%)	中：83.5% (全国：83.3%)
	【先生は、あなたのよいところを認めてくれていてと思いますか】	小：90.3% (全国：89.9%)	中：90.5% (全国：90.4%)
	【将来の夢や目標を持っていますか】	小：84.1% (全国：82.4%)	中：65.4% (全国：66.3%)
	【学校に行くのは楽しいと思いますか】	小：86.3% (全国：84.8%)	中：86.1% (全国：83.8%)
	【普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか】	小：92.3% (全国：91.7%)	中：92.0% (全国：89.8%)
	【人の役に立つ人間になりたいと思いますか】	小：96.2% (全国：95.9%)	中：95.8% (全国：95.2%)
協調的要素	【地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか】	小：84.5% (全国：83.5%)	中：75.8% (全国：76.1%)

(参考) 令和6年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査

(考察)

- ◆ 個人が獲得・達成する能力や状態に基づく獲得的要素、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的要素に基づくウエルビーイングとも、およそ8割以上の児童生徒が肯定的な回答をしている。また、京都市は全国と比べ、数値が高い傾向にある。
- ◆ 獲得的要素については、中学生段階に至ると「将来の夢や目標を持つ」子どもの割合が低くなること、協調的要素について、「人の役に立つ人間になりたい」と思う子どもとの割合に比べ、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と思う子どもの割合は低く、子どもの思いが公共性にまで至っていないとも考察できる。教育活動を通じて、これらの指標を上げていくことが求められる。

STEAM教育の概念、変遷等について

● 米国におけるSTEAM教育の変遷

時期	内容	特徴
2000年代初頭	STEM教育の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル競争を背景に、科学技術人材の国家的育成策として始動。 ・ STEM教育支援の法的枠組みが整備される。
2009年～	STEM教育を国家戦略に位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国をあげてSTEM教育の強化を図る「Educate to Innovate」キャンペーンが展開。
2010年代中盤～	STEAMへの拡張（Artsの導入）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「科学や工学に創造性と人間性を取り戻すべき」との主張が支持され始める。 ・ STEAM教育を州レベルで正式導入する動きが拡大。教育の幅が拡張。
2019年～	「STEAM法」制定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連邦レベルでArtsを含む教育支援の法的枠組みが整備される。 ・ 教育機関や博物館などでSTEAMプログラムが広く展開されるようになる。

● わが国におけるSTEAM教育の概念の例(その1)

○ 統合型のSTEM教育

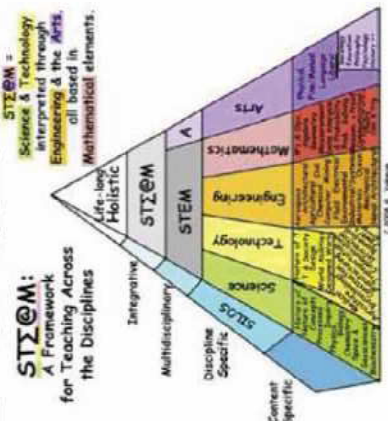
Science、Technology、Engineering、MathematicsのSTEM分野が複雑に関係する現代社会の問題を、各教科・領域固有の知識や考え方を統合的に働かせて解決する学習としての共通性を持ちつつ、その目的として①科学・技術分野の経済的成長や革新・創造に特化した人材育成を志向するものと、②すべての児童生徒に対する市民としてのリテラシーの育成を志向するものがある。

○ STEAM教育—アート、リベラルアーツ、文理の枠を超えた学び—

◆ 初期のSTEM教育は、**統合型STEM教育にArts(デザイン、感性等)の要素を加えたもの**と解釈できる。Yakman(2008)では、STEM教育は学問領域を横断して指導する枠組みであると示している。また、STEM教育は、エンジニアリングとアーツ(言語や歴史などを含む文科)を通して解釈される科学と技術であり、すべては数学的な要素に基づくものであるとする。

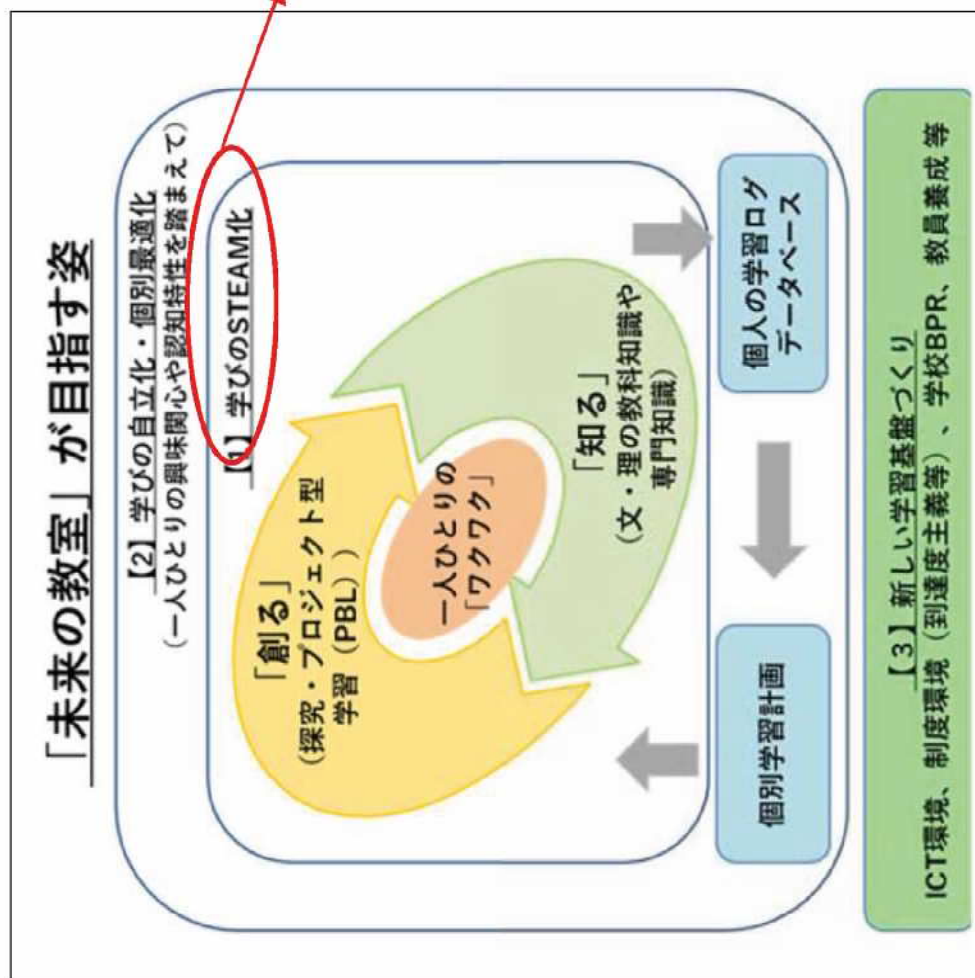
◆ 近年は、現実社会の問題を創造的に解決する学習を進める上で、あらゆる問いを立てるために、Liberal Arts(A)の考え方に基づいて、自由に考えるための手段を含む**美術、音楽、文学、歴史に関わる学習**などを取り入れるなどSTEM教育を広く横断的に推進していく教育(東京学芸大学 大谷 忠氏より)。

◆ 取り扱う社会的課題によって、S・T・E・Mを幹にして、ART/DESIGNやROBOTICS、E-STEM(環境)など様々な領域を含んだ派生形が存在し、さらには国語や社会に関する課題もあり、いわゆる**文系、理系の枠を超えた学び**となっている(日本STEM教育学会 新井 健一氏より)。



(出典)「STEM教育等の教科等横断的な学習の推進について」(文部科学省)より

● わが国におけるSTEAM教育の概念の例(その2)



【1】 学びのSTEAM化

一人ひとり違うワクワクを核に、「知る」と「創る」が循環する、文理融合の学びに

子ども達が未来に向けた様々な社会課題等に触れ、ワクワクする感覚を呼び覚まされる、また、文理を問わず必要な教科知識・専門知識の効率的な習得（「知る」と、「探究・プロジェクト型学習（PBL）による課題発見・解決の試行錯誤（「創る」）が循環する学びに。

京都市青少年科学センターの取組概要



● 概況

- ・ 1969年5月、「『科学者精神』を体得した将来の市民の育成」を目的として現在地に設立。前身は、戦後に科学教育振興の先駆けとして大きな役割を果たした「科学教室」（1951年設置）。
- ・ 2025年3月、博物館法に定められる博物館に登録（1979年、博物館に相当する施設に指定）。
- ・ 子どもたちの理科教育や市民の生涯学習の振興に向け、多くの大学や企業団体等との連携・協働、御支援を賜りながら、「センター学習」や「教員研修・学校等支援」、「市民科学事業」など、様々な取組を推進。
- ・ 展示場の一般入館者数は年間で約14万人（その他、センター学習等での来館者あり）。

所在地：京都市伏見区深草池ノ内町13



【地下鉄竹田駅から東へ約1km、京阪本線藤森駅から西へ約400m】

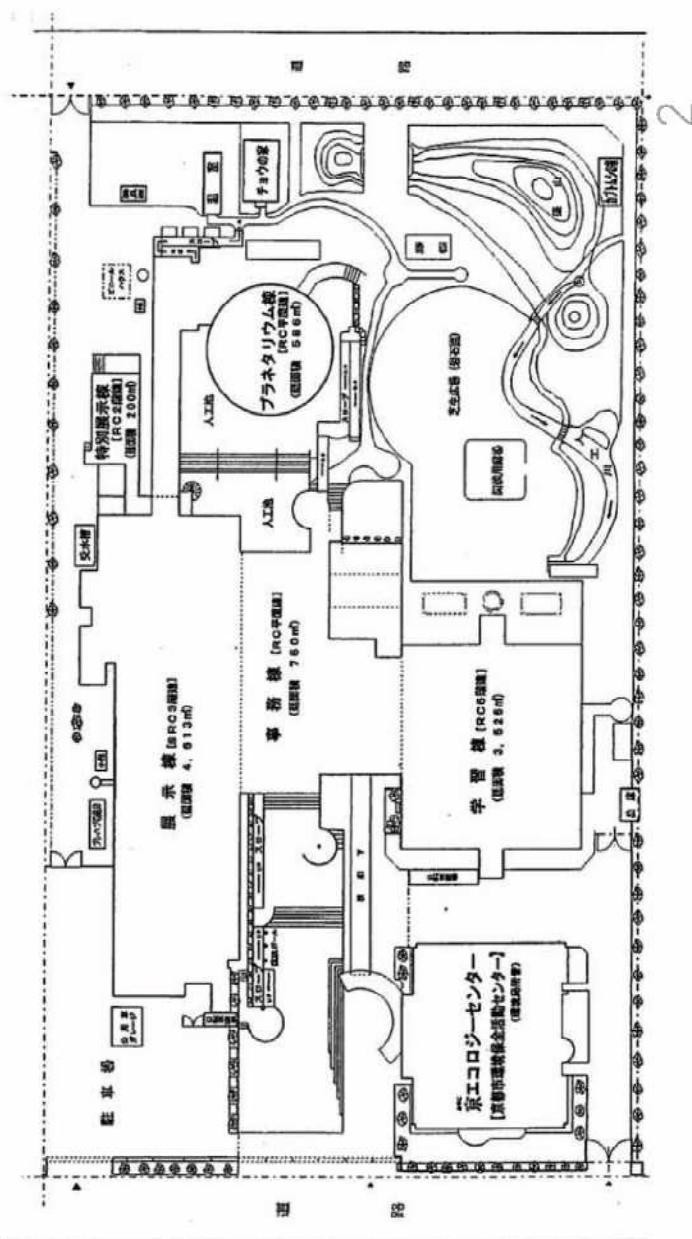


● 施設について

- ・ 用途地域 第1種住居専用地域、容積率200%、建蔽率60%、高度地区20m第2種高度地区
- ・ 敷地面積 17,408㎡、延床面積 9,674㎡（鉄筋コンクリート造地上3階）、屋外園 5,200㎡
- ・ 1969年竣工。指定都市の科学館15館の中では一番古い施設（設備）。目標耐用年数は80年。

<建物等の主な内容>

- ・ 学習棟 3,525㎡
実験室、天文台など
- ・ 展示棟 4,813㎡
展示スペース (2,030㎡) など
- ・ プラネタリウム棟 586㎡
- ・ 事務棟 750㎡
- ・ 屋外園 5,200㎡
チヨウウの家、カブトムシ飼育所等



● 主な事業について

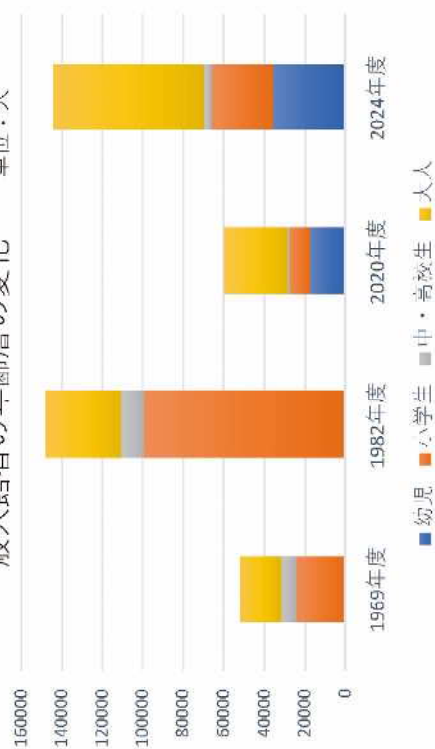
主な事業	内容
センター学習	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園、保育所、小学校、中学校、高校、総合支援学校段階の子どもが、学校教育活動の一環として来館し、独自の教材やプログラムを用いて実施する観察実験学習。 [小学校6年生は全校参加]
教員研修・学校等支援	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校教員等を対象とし、観察実験の基本的な実技や効果的で安全な指導法など、年間20種類以上のメニューで研修を実施。 観察実験の補助等を行うスタッフの派遣や指導等に関するアドバイス、教材貸出など、理科教育の充実に向けた学校への支援を実施。
市民科学事業	<ul style="list-style-type: none"> 市民の科学に対する興味関心を高めるため、展示場やプラネタリウムの公開、市民向けの各種講座を実施

一般入館者数等の推移

年度	1969	1982	2018	2020	2024
展示場一般入館者数	51,957	147,999	133,304	59,453	144,305
内訳					
幼児	-	-	34,981	17,598	36,101
小学生	24,321	99,326	33,680	9,852	29,593
中・高校生	7,436	11,398	3,318	1,141	3,943
大人	20,200	37,275	61,325	30,862	74,668
(親子ふれあいSR)	-	-	(28,744)	(12,980)	(34,628)
<参考>					
プラネタリウム観覧者	39,606	115,667	66,707	16,536	70,314
センター学習	70,139	84,966	31,895	44	25,043

※ 親子ふれあいSR（サイエンスルーム）：乳幼児と保護者が、科学的な遊具や木などにふれあい、科学の不思議や面白さを体験する場。（2012年度に開設）

一般入館者の年齢層の変化



● 特色ある取組について

- 多様な企業団体等との連携・協働により、取組の対象は、サイエンスを基軸に、伝統産業や芸術など他の分野を包摂するものへと広がっています。

○ STEAM LAB.

- 騎手クリストフ・ルメール氏とのトークセッション
(生き方探究×生物)
- バレタイン プラネタリウムコンサート
(京都市交響楽団×天文)
- いけばなパフォーマンス in プラネタリウム
(伝統文化×天文)
- 立体紙切り師 辻笙氏の自分だけの立体恐竜をつくろう！
(立体紙切り×地学)

○ おとなのセンター学習

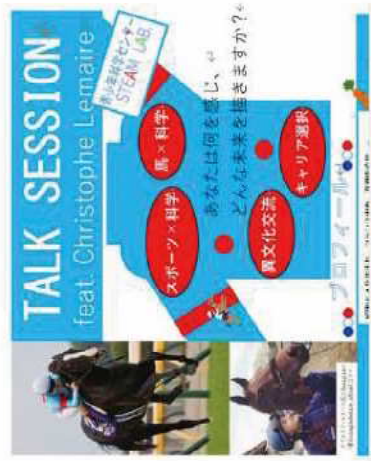
- 日本酒の科学 ～酵母の不思議～

「伝統的酒造り」のユネスコ無形文化遺産登録を契機に企画。京都酵母を開発した京都市産業技術研究所と連携。アルコールの性質に関する実験を通じて酵母の働きを学ぶ。

○ 科学×京都の伝統産業×伝統工芸

- 金箔、和ろうそく、京コマ、京友禅（型友禅染体験）

青少年科学センター STEAM LAB.



京コマ職人が講師。コマが回る物理法則を学びつつ、京コマを製作。

● 多様な主体との主な連携・協働について

連携手法	連携主体・内容
包括連携協定	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>（株）村田製作所「STEAM教育を通じて次世代を育成するパートナー」【2023年度から10年間】</u> ⇒ 展示場や体験事業等の充実支援。毎年1千万円、合計1億円の寄付。 ・ <u>武田薬品工業（株）京都薬用植物園「教育活動の推進」【2024年度から3年間】</u> ⇒ 屋外園整備や教員研修の充実支援。 ・ <u>京都市動物園、京都市立植物園、京都水族館「きょうと☆いのちかがやく博物館」【2014年度～】</u> ⇒ 連携イベントの実施（季節ごとに4園館が主催をもち回って実施）。 ・ <u>未来のサイエンスト養成事業「体験コース」における協力企業・団体【2025年度実績】</u> ナカライテック（株）、ニデック（株）、京都市衛生環境研究所、大阪ガス ネットワーク（株）、 総合地球環境学研究所、京都市上下水道局水質管理センター、（株）村田製作所、清水長金属工業（株）、 （株）島津製作所、武田薬品工業（株）京都薬用植物園、さすてな京都、（株）ユースエナジーホールディングス
体験講座	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>企業特別展における協力企業【2013～2025年度実績】</u> ニチコン（株）、京セラ（株）、オムロン（株）、ローム（株）、（株）堀場製作所、三洋化成工業（株）、タキイ種苗（株）、 （株）SCREENホールディングス、（株）村田製作所、武田薬品工業（株）京都薬用植物園
企業特別展	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>京都市科学系博物館等連絡協議会【26団体が加盟】</u> ⇒ 青少年科学センターが事務局となり、毎年、サイエンスフェスティバル等を開催
協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>標本研究における連携</u> 大阪市立自然史博物館、滋賀県立琵琶湖博物館
その他	

● 未来のサイエンティスト養成事業

※募集チラシの一部を抽出して掲載。体験コースは、秋冬(11月～1月)にも5講座(定員約150名)を実施。

未来のサイエンティスト 大募集!!

令和7年度

探究コース

定員10名程度

理・科学好きな小中学生が、将来、自然科学分野を目指す際に役立つ基礎を身につけることを目的に実施している、未来のサイエンティスト養成事業の参加者を募集します!

対象：京都市内在住又は市内の学校に通学する**小学5年生～中学3年生**の児童・生徒

選考：申込内容をもとに選考します。

結果通知：結果通知は応募者全員に書面にて郵送いたします。発送は6月下旬予定。
(事業説明会を7月6日(日)に予定していますので会員になられた方は御参加ください。)

応募期限：令和7年6月12日(木)まで

その他：応募方法は裏面を御確認ください。

実施日	テーマ (実施者)	時間	対象	実施場所	定員
7月22日 (火)	研究者ってどんなことをしているの? ～実験スタンプラリーに挑戦～ (ケカライテスクウェア)	10:00～12:00	小学生	科学センター	16名
		14:00～16:00			16名
7月23日 (水)	モーターと地球環境～わたしたちがができること～ (ニテック㈱)	13:30～15:30	小学生	科学センター	40名
		13:30～16:30	小学生	京都市衛生環境研究所	25名
7月24日 (木)	燃焼のふしぎ (大阪ガスネットワーク㈱)	10:00～11:15	小学生	科学センター	20名
		13:30～14:45	小学生	科学センター	20名
7月25日 (金)	環境科学教室～私たちの生活を科学の目で見直そう!～ (京都市衛生環境研究所)	13:30～15:00	中学生	京都市衛生環境研究所	20名
		10:00～12:30	小・中学生	総合地球環境学研究所	20名
7月26日 (土)	私たちが自然をつなぐ物質のめぐりを学ぶ (総合地球環境学研究所)	10:30～11:30	小学生	科学センター	15名
		10:30～12:00	小学生	科学センター	40名
7月25日 (金)	電気エネルギーを覚えよう (筒村田製作所)	14:00～15:30	小学生	科学センター	40名
		14:00～15:30	小学生	科学センター	15名
7月25日 (金)	水道水ができるまでのしくみ (京都市上下水道局 水質管理センター 水質第1課)	10:00～12:00	小学生	科学センター	20名
		9:30～12:00	小学生	島津製作所	10名
7月25日 (金)	島津ふんせき体験スクール (分光コース) (島津製作所)	13:30～16:00	中学生	島津製作所	10名
		10:30～12:00	小学生	島津製作所	36名
7月25日 (金)	「発酵」でつながる「生きものサイクル」 ～自然のチカラとヒトの技術～ (京都薬品工業㈱京都市薬用植物園・さすてな京都)	13:30～15:00	小学生	さすてな京都	36名
		9:30～12:30	小学生	さすてな京都	24名

体験コース

定員200名程度

企業等による独自の技術を活かした実験教室に参加し、学校では体験できない科学の不思議さや面白さを実感して自分の研究テーマを探しましょう。

対象：京都市内在住又は市内の学校に通学する**小学4年生～中学3年生**の児童・生徒

抽選：申し込みがそれぞれの講座の定員を超える場合は、抽選にて参加者を決定します。

結果通知：結果通知は応募者全員に書面にて郵送いたします (7月上旬予定)。

応募期限：令和7年6月22日(日)まで

その他：実施内容や応募方法は裏面を御確認ください。

※ 11月以降に秋を講座を実施予定です。
秋冬講座の詳細が決ま次第、体験コースにお申込みいただけます。また、お問い合わせください。

● 企業と連携した最新の科学技術の体験イベント

広報資料
(教育・経済)

muRata 村田製作所 × 京都市青少年科学センター
ふしぎな石ころ“echorb”の特殊な振動体験と未来を想像する
ワークショップの実施について

令和8年1月16日
青少年科学センター
(事業担当：642-1401)

株式会社村田製作所と京都市は、STEM 教育を通じて次世代を育成するパートナーとして連携し、京都の未来を担う子どもたちの社会の創り手として必要となる資質、能力を育成することを目的として、令和5年3月24日に包括連携協定を締結しました。この度、大阪・関西万博のシグネチャーパーバリアリオン [Better Co-Being] でも活躍した、「ふしぎな石ころ “echorb (エコーブ)”」を体験し、未来を考えるワークショップを下記の通り実施します。


1 実施日時
令和8年2月11日 (水・祝)
午前9時～11時45分 午後14時～14時45分

2 実施場所
京都市青少年科学センター 展示場2階 多目的室

記

※echorb (エコーブ) とは…
特別な振動で皮膚を刺激して、脳を
働かせさせてしまう技術。本当に触っ
たような『手ごたえ』をいろいろな形で
感じられるよ！

3 参加者及び定員
小学4～6年生 各回20名
(1月6日(火)～1月20日(火)に、京都いつでもコールにて参加者を募集。
多数の場合は抽選のうえ、参加者を決定。)



4 実施内容

- (1) 村田製作所から echorb の技術などについての講義
- (2) 参加者による echorb 体験
- (3) 未来での echorb の活用法など、アイデアを出し合い未来を想像するワークショップ

＜京都市青少年科学センター＞

〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13
TEL.075-642-1601 FAX.075-642-1605
[休館日] 木曜日 (祝日の場合は翌平日) ホームページはコチラの二次元コードから ⇒

[開館時間] 9:00～17:00 (入館は16:30まで)

料 金	小学生未満	小学生	中・高生	大人
入場料	無料	100円 (90円)	200円 (180円)	500円 (470円)
プラネタリウム観覧料	無料	100円 (90円)	200円 (180円)	500円 (470円)
年間入場券(展示場のみ)	—	—	—	1,500円

※ プラネタリウムの観覧には入場料も必要。()内は30人以上の団体。
※ 土曜日と日曜日は、京都市内に住所または通学先がある小・中・高・総合支援学校・民族学校の児童・生徒の入場料及びプラネタリウム観覧料は無料です(祝日・振替休日は有料)。

令和8年度 京都市当初予算(案)

教育委員会予算の概要

1 予算編成に当たったの考え方

教育委員会では、一人一人の子どもを徹底的に大切にす本市教育理念の下、誰一人取り残されず、全ての子どもたちに、伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を創造する力を育むための学校教育の充実と、まち全体を学びの場とする生涯学習のまちづくりに向け、市民ぐるみで取り組んでいる。

予測困難な社会の変化を柔軟に受け止めながら、グローバルに活躍する人材育成や、子ども、子育て世帯の複雑化・多様化する課題やニーズに対応するため、令和8年度は、本市ならではの英語教育、不登校児童生徒への支援、部活動地域展開・地域クラブ活動の充実に向けた取組や市立高校魅力化のほか、昨今の社会情勢を踏まえ、遠距離等通学費補助制度の拡充や、小学校給食無償化の実施等、保護者負担の更なる軽減にも取り組む予算を編成した。

また、京都基本構想や新京都戦略を踏まえ、京都のまちの強みを生かし、子どもの健全育成と地域の活性化の好循環を創出する学校を核とした地域づくりや、新しい図書館構想に向けた検討を一層推進するとともに、学校体育館空調の本格整備など環境充実に取り組む。

更に、教職員の働き方改革や学校等の環境整備にも、引き続きしっかりと取り組みながら、これまでの教育実践を礎に、更なる教育改革を推進し、子どもが安心して過ごせる居場所としての学校づくりと興味や関心を高め夢中になれる教育の実現、市民の生涯学習の機会の充実に向け取り組む。

(出典) 上：京都市情報館 令和8年度予算について 当初予算の概要 2所管別主要施策の概要
右：京都市情報館 令和8年度予算について 事業概要 令和8年度予算案新規充実等事業概要

事業事業名 みんなでつむぐKYOTO科学ミライLUB(ラブ)

【事業実施に至る経過・背景など】

京都市青少年科学センターでは、「京都ならではのSTEAM教育」の拠点としてふさわしい科学館への飛躍を目指して、今後の「使命」や「あるべき姿」、「果たすべき役割」等に関する調査研究を進めている。

令和7年度は、有識者等で構成する検討会議をはじめ、「まちびとよりあひ〜京都でSTEAM〜」などの様々な立場の市民等が参加する対話の場を設定し、多様な御意見をいただきながら、議論を重ねている。令和8年度には、こうした議論の場で交わされた意見を踏まえ、科学がよりよい未来を創るうえで必要不可欠であるという認識の下、STEAM教育の特長である内発的動機を原動力とした知の深化・探索・創造を目的に、京都の「まち柄」を活かした取組を実施する。

【事業概要】

・ 京都のまちの豊かな自然や生活文化等に息づく多様な「科学のタネ(以下、「推し」という)」をテーマに、「推し固有の学び場」と「推し同士の交じり場」を創設、運営し、「推し」を通じて人や知恵が交じり合う公共空間の形成を目指すプロジェクト「みんながでつむぐKYOTO科学ミライLUB※」に着手する。

※「LABORATORY」…「実験室」「研究室」「作業室」「開発室」

「HUB」…「科学教育のHUB」「科学以外のHUBとの接続」など「関係性の結節点」

「FABRICATION」…「ものづくり」「事物の結合関係を決定する物理的な仕組みや機構」

・ 「推し固有の学び場」(テーマ別の学びの場)

石・星・植物など特定の「推し」に関するテーマに関心を持つ方々が、川・天文台など当該テーマにゆかりのある場所を集い、観察活動や対話を行う場を創設する。参加者間の関係性が育まれるとともに、テーマに関する知恵が深化することを旨とする。

・ 「推し同士の交じり場」(多様なテーマの交流の場)

「科学教育のテーマコミュニティHUB」である科学センターにおいて、多様な「推し」に関心を持つ方々が一堂に会し、観察活動や対話を行う場を創設する。「推し固有の学び場」同士が交じり合うことで、参加者間の関係性が育まれるとともに、領域を横断した新たな知恵が深化することを旨とする。

※「テーマコミュニティHUB」…複数の「推し」に共通するテーマを掲げた交流の場

・ 上記事業は、当センターの既存事業も組み入れて推進するとともに、年間を通じた事業全体における課題の特定、改善策の提示、改善策の実施支援、評価に関する調査研究も同時に行い、その成果を更なる飛躍に向けた基盤整備に生かす。

